

セイラム サンプ チューブ

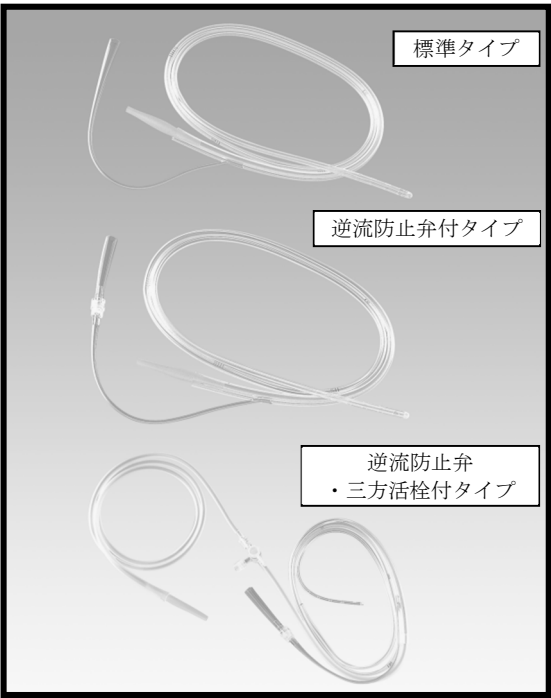
再使用禁止

【禁忌・禁止】

＜使用方法＞

- 1.再使用禁止
2.再滅菌禁止

【形状・構造及び原理等】



本品は標準タイプと、逆流防止弁付タイプがあり、逆流防止弁付タイプには延長チューブが付属する場合がある。本品の内部は排液腔と空気腔の二重構造になっており、表面にはエックス線不透過線と複数の側孔が付けられている。また、チューブの硬さによりスタンダードタイプとソフトタイプに分類することができる。目盛はチューブ先端より45cm、55cm、65cm、75cmの4ヶ所に順次1本線、2本線、3本線、4本線のマーク及び数字が付いている。ただし、3.3mmチューブは45cm、55cm、65cmの3ヶ所に順次1本線、2本線、3本線のマーク及び数字が付いている。2.7mmチューブは先端より20cm、30cmの2ヶ所に1本線のマーク及び数字が付いている。

形状	チューブ 硬さ	チューブ 外径mm (Fr)	チューブ 長さ (cm)
標準タイプ	スタンダード	3.3 (10)	88
		4.0 (12)、4.7 (14)、5.3 (16)、6.0 (18)	120
	ソフト	2.7 (8)、3.3 (10)	88
		4.0 (12)、4.7 (14)、5.3 (16)、6.0 (18)、6.7 (20)、7.3 (22)、8.0 (24)、8.7 (26)、9.3 (28)	120
逆流防止弁付タイプ	スタンダード	3.3 (10)	88
		4.0 (12)、4.7 (14)、5.3 (16)、6.0 (18)	120
	ソフト	2.7 (8)、3.3 (10)	88
		4.0 (12)、4.7 (14)、5.3 (16)、6.0 (18)	120
逆流防止弁付タイプ (延長チューブ付属)	ソフト	4.0 (12)、4.7 (14)、5.3 (16)、6.0 (18)	120

＜原材料＞

チューブ：ポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ2-エチルヘキシル）

【使用目的又は効果】

経鼻又は経口的に、胃又は食道内に挿入留置し、吸引、排液、排気、薬液等の注入及び洗浄又は異物除去に短期的に使用する。

【使用方法等】

使用方法

1. 常法に従って、経鼻又は経口で本品を胃内に挿入する。
 必要に応じてエックス線透視下でチューブ及び側孔の位置を確認する。なお、挿入深度の確認は【形状・構造及び原理等】に記載のある内容を参照すること。
2. 本品に吸引器等を接続する。排液を中断するときは、枝管をコネクタにかぶせておくこと。不用意な逆流（標準タイプ）及びチューブへの異物の混入が防げる。延長チューブを接続する場合は、延長チューブの三方活栓をチューブ本体と接続し、他端を吸引器に接続し排液するか、または他端を排液バックに接続し自然排液する。

＜注意＞空気腔よりの逆流防止のため、枝管の端は患者の胃より上方に設置し、排液収集ピンは患者より下方に設置すること。それでも逆流が生じるときは、サンプ効果に支障のないよう、空気腔及び排液腔に空気又は水等を注入し、詰まりを取り除くこと。

使用方法に関する使用上の注意

1. 気管壁の損傷ならびに気管・肺への誤挿入及び誤留置に注意すること。チューブ挿入時に抵抗が感じられる場合又は患者が咳き込む場合は、肺への誤挿入のおそれがあるため無理に挿入せずに、一旦抜いてから挿入すること。[肺の器官損傷又は肺への栄養剤等の注入により、肺機能障害を引き起こすおそれがある。]
2. チューブ挿入時及び留置中においては、チューブの先端が正しい位置に到達していることをエックス線撮影、胃液の吸引、気泡音の聴取又はチューブマーキング位置の確認など複数の方法により確認すること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 留置期間は2週間以内とし、2週間以上使用するときは、新しいものと交換すること。本品は可塑剤を含んでいるため、留置中に可塑剤が溶出して硬化することがある。硬化は個人差があり、留置後約1週間から始まる。
- 接続部は使用中に緩むことがある。漏れや外れに注意し、締め直し等の適切な処置を行うこと。
- ** ● チューブに折り曲げや引張り等のストレスを与えないよう注意すること。[チューブの閉塞或いは破断のおそれがあるため。]
- 最高陰圧は13kPa(=100mmHg)である。最高陰圧とは、37℃温水中に15分間浸漬後、60秒間陰圧にした時にカテーテルが変形しない最高の圧であり、臨床使用時の吸引圧とは異なる。臨床で使用する場合は医師の判断のもと、適正な吸引圧に設定すること。
- * ● 本品はMR Safe であり、一般的なMR検査による影響はない。

2. 不具合・有害事象

カテーテルの留置操作中あるいは留置中に、以下の有害事象がまれにあらわれることがあるので、異常が認められたら直ちに適切な処置をすること。

重大な有害事象

気管内挿管、鼻腔及び消化管の出血、びらん、過度の嘔吐、消化管穿孔

【保管方法及び有効期間等】

**1. 保管の方法

室温下で、水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装上に記載(自己認証(当社データ)による)。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

*製造販売業者

*カーディナルヘルス株式会社

カスタマーサポートセンター:0120-917-205